

「JICA地球ひろば」設立10周年を記念した感謝祭

01



[左上]仁田知樹元JICAブータン事務所長とブータン訪問時のエピソードを話す押切さん
[右上]さかなクンのトークショーに、多くの子どもたちが耳を傾けた
[下]地球ひろばの体験ゾーン



市民による国際協力を推進するための拠点として2006年4月に設立された「JICA地球ひろば（東京都新宿区）」が、5月28日に10周年を迎え、記念感謝祭を開催しました。

感謝祭には、元サッカー日本代表の北澤豪さん、押切もえさん、さかなクンの3人のJICAオフィシャルサポーター／なんとかしなきや！プロジェクトメンバーがスペシャルゲストとして登場。それぞれの活動を報告しました。

会場には、JICAの事業だけでなく、国際協力や交流を行うNGOなどのブースが設置され、1200人近くの来場

者が、活動紹介やフェアトレード商品の販売など、幅広い企画を楽しみました。

JICA地球ひろばには、この5月までに延べ140万人が訪れています。訪問者が開発途上国の人々への共感や連帯感を育む場となる一方、NGOや市民団体にとっては、情報発信・交流・研修の拠点となっています。

感謝祭では、スペシャルゲストの活動報告の他、青年海外協力隊設立50周年を記念して制作された映画「クロスロード」の特別上映とすぎじゅんいち監督のスペシャルトークや、世界の伝統音楽の演奏などが行われました。

来場者からは、「自分に何ができるかを考え、いつか協力隊に参加したい」「多くの人が海外でがんばっていることを知り、自分も協力したいと思った」などの感想が寄せられました。

地球ひろばには3つのゾーンがあり、さまざまな形で国際理解と開発協力を推進しています。

体験ゾーンでは、国やテーマ別の展示を企画・開催。途上国を中心とした世界の課題を、体験型展示を通じて学ぶことができます。学びをサポートするのは、青年海外協力隊員OBなど、国際協力の現場での経験を持つ「地球案内人」。展示について、実体験に根差した説明を行っています。

交流ゾーンでは、登録された国際協力・交流団体に有料・無料で会議室を貸し出ししており、報告会やセミナー、交流の場として活用されています。

また、飲食スペース「s Cafe」では、隔月で実施している国別展示に合わせた途上国の料理をランチタイムに提供しています。

この他、地球ひろばでは、社会科見学や修学旅行など、グループでの国際理解教育プログラムに対応した受け入れプログラムや、中学生・高校生のエッセイコンテスト、教員を対象とした海外研修なども開催。さらに、国際理解と開発教育のための教材貸し出しも行っており、市民参加による国際協力と国際交流を多角的に応援しています。

世界と日本のつながりを知り、世界のために私たちができることを市民のみならずと一緒に考え、実践するための場所「地球ひろば」。ぜひ地球ひろばを訪れ、あなたにもできる協力のヒントを見つけてみてください。

スリランカの豪雨被害に対する国際緊急援助

02



引き渡し式の様子(左から菅沼大使、ヤーバ大臣、天田所長)

5月15日からスリランカ西部を中心とする地域で豪雨が続き、各地で洪水や土砂崩れなどが発生しています。この被害に対する同国政府からの支援要請を受けて、JICAは緊急援助物資を供与しました。

現地当局の発表によれば、現地時間5月19日時点の被害状況は、死者58人、行方不明者144人、被災者約42万人、被災家屋3438戸に上っています。加えて、浸水による農作物の被害や土砂災害による道路の寸断といった二次的被害も発生しています。

JICAが供与した毛布や簡易水槽、浄水器などの緊急支援物資は、21日にコロンボに到着。物資の引き渡し式には、スリランカ災害管理省のアヌラ・プリヤダルシヤナ・ヤーバ災害管理大臣、菅沼健一在スリランカ日本国大使、天田聖JICAスリランカ事務所長らが出席しました。ヤーバ災害管理大臣は、日本が他国に先駆けて支援物資を届けたことに感謝の意を示しました。

今回供与した援助物資は、同国政府により被災者に届けられます。